

第6講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

① いづくにもあれ、しばし旅立ちたるこそ、目覚むる心ちすれ。

そのわたり、ここかしこ見歩き、^②ゐなかびたる所、山里などは、いと目なれぬことのみぞ多かる。

都へ便求めて文やり、「^③そのこと、かのことかの便宜に忘るな」など言

ひやりたるこそをかしけれ。^④

⑤ さやうの所にてこそ、万に心づかひせられ、持てる調度まで、よきはよく、能ある人、かたちよき人も、常よりはをかしと見ゆれ。

寺、社などに忍びて籠りたるも、をかし。

(『徒然草』より第十五段)

(現代語訳)

どこでもよい、しばらくよそで泊まったりするのこそ、目が覚めるよ
うな 心地がするものだ。

そのあたり、ここあそこを見て回り、ひなびたところ、山里などは、
たいそう見なれないことが多くあるものだ。

都へつてをさがしては手紙を送り、「そのこと、あのことあのついでに
忘れないように」などと言いつ送るのは趣がある。

そんなところでこそ、万事につけ自然に気づかひされ、持っている道
具類まで、上等な物は上等に、技芸の才能のある人、器量のいい人も、
ふだんよりは見事だと感じられる。

寺や神社などに人目を避けて泊まって祈念するのも、趣がある。

問一 「徒然草」の作者を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 清少納言 イ 吉田兼好

ウ 紫式部 エ 松尾芭蕉

問二 線①「いづく」、②「ゐなかびたる」、③「さやう」の読み方

を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

①

②

⑤

問三 線③「文」、④「をかしけれ」、⑥「かたち」の意味を現代語

訳の中から書き抜きなさい。

③

④

⑥

問四 にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア 恥ずかしい イ 退屈な

ウ おそろしい エ 新鮮な

問五 線⑦「ひなびたところ、山里など」とありますが、筆者はふ

だんはどこにいますか。現代語訳の中から書き抜きなさい。

練習問題

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

かぐや姫のうわさを聞いて、多くの男が求婚にやってきましたが、姿を見ることもできない。

人の物ともせぬ所にまどひありけども、なにの験あるべくも見えず。

家の人どもに物をだに言はんとて、言ひかかれども、ことどもせず。あたりをはなれぬ君達、夜をあかし、日をくらす、多かり。おろかなる人は、「用なきありきは、よしなかりけり」とて、来ず成にけり。

其中に、なほ言ひけるは、色好みといはるるかぎり五人、思ひやむ時なく、夜昼来ける、その名ども、石作の御子・くらもちの皇子・右大臣阿倍のみむらじ・大納言大伴の御行・中納言石上の麻呂足、此人々なりけり。

世中に多かる人をだに、すこしもかたちよしと聞きては、見まほしうする人どもなりければ、かぐや姫を見まほしうて、物もくはず思ひつつ、かの家に行きて、たたずみありきけれど、かひあるべくもあらず。文を書きてやれども、返事もせず。わび歌など書きておこすれども、かひなしと思へど、霜月・師走の降りこほり、水無月の照りはたたくにも、障らず来たり。

この人々、ある時は、竹取をよび出て、「娘を、吾に賜べ」とふし拝み、手をすりのたまへど、

「をのが生さぬ子なれば、心にも従はずなんある」と言ひて、月日過ぐす。かかれば、この人々、家にかへりて、物を思ひ、

祈りをし、願を立つ。思、やむべくもあらず。「さりとも、つひにをどこ婚はせざらむやは」と思ひて、頼みをかけたり。あながちに、心ざしを

見えありく。

(『竹取物語』)

- *1 まどひありけども || さまよい歩いたが。
- *2 君達 || 貴公子たち。
- *3 おろかなる人 || あまり熱心でない人たち。
- *4 用なきありきは、よしなかりけり || 無用の歩き回りは無駄だった。
- *5 言ひけるは || 言い寄ったのは。
- *6 色好み || 恋の達人。
- *7 見まほしうする || 妻にしたいと思う。
- *8 たたずみありきけれど || あちこち場所を変えて立ちつくすが。
- *9 わび歌 || 思いの苦しさを訴える歌。
- *10 降りこほり || 雪が降り氷がはるときにも。
- *11 照りはたたくにも || 太陽が照りつけ雷が鳴りひらめくのものにも。
- *12 賜べ || ください。
- *13 心にも従はずなんある || 私の意見にも従わないでいるのです。
- *14 つひに || 最後まで。
- *15 婚はせざらむやは || 結婚させないことがあるうか。
- *16 あながちに || 無理算段をして。
- *17 心ざしを見えありく || 思いの深さを見せつけるように歩き回る。

問一 線A「なほ言ひけるは」、B「見まほしうて」、C「のたまへど」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

A

B

C

問二

線 a 「ことどもせず」、b 「返事もせず」、c 「来たり」、d 「言ひて」の動作主として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 求婚者たち
- イ 竹取の家の人たち
- ウ 竹取
- エ かぐや姫

a _____

b _____

c _____

d _____

問三

線 ① 「だに」は、軽いものを挙げて、より重いものを類推させる言葉ですが、ここで(1)軽いもの、(2)重いものとは、それぞれ何ですか。現代語で書きなさい。

(1)

(2)

問四

線 ② 「かひ」と同じことを意味する言葉をここより前の文中から一字で探し、書き抜きなさい。

問五

線 ③ 「霜月」、④ 「師走」、⑤ 「水無月」は、それぞれ陰暦の何月ですか。

③ _____

④ _____

⑤

問六

この古文を現代語訳する際に、線 ⑥ 「月日」、⑦ 「この人々」、⑧ 「を」ところのあとに助詞を補うとわかりやすくなります。それぞれ適当なひらがな一字で答えなさい。

⑥ _____

⑦ _____

⑧ _____

問七

線 ⑨ 「あながちに、心ざしを見えありく」とありますが、これは何をしているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 腹を立てて、怒りをぶつけている。
- イ 望みを捨てないで、自分を売り込んでいる。
- ウ 思いを断ち切つて、別れのあいさつをしている。
- エ 苦しみが高じて、自分を辱めようとしている。

問八

次のうち、この文章の内容と合うものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 竹取は、貴公子たちの思いがどの程度のものであるか、確かめようとした。
- イ かぐや姫は、家の人たちを通じて、貴公子たちの求婚をすべて断つた。
- ウ 貴公子たちはなかなかかぐや姫に会えず、代表者五人を送り込むことにした。
- エ 貴公子たちはさまざまな手を使ってかぐや姫に近づこうとしたが、だれも成功しなかった。
